

秋～春期にアザミウマ類およびアブラムシ類の土着天敵の温存に有

効な植物の選定

○柿元一樹¹・西 八東¹・長友 誠¹・小山田耕作²・水谷信夫³

¹鹿児島県農業開発総合センター

²鹿児島県南薩地域振興局指宿市十二町駐在

³農研機構・九州沖縄農業研究センター

露地栽培作物において、土着天敵を活用した保全的生物的防除による実用的効果を得るためには、土着天敵の誘引、定着および増殖を促進可能な天敵温存植物の利用が重要である。果菜類の露地栽培は、南九州地域では主に4月中旬頃から開始される。アザミウマ類やアブラムシ類などの害虫は作付後間もなく発生するが、一般的に土着天敵の発生は害虫の発生よりも遅れるため、土着天敵を速やかに作物上へ定着させるには天敵温存植物等の活用による強化手段も必要であると考えられる。そこで、春期に土着天敵の温存に有効な植物を選定する目的で、カラシナ類、クローバ、ハゼリソウ、ヘアリーベッチなど、草種および品種が異なる13種類について、餌昆虫と土着天敵個体数を調べた。また、植物の植栽時期が土着天敵の発生に及ぼす影響を知るため、播種又は移植時期を10月中旬と12月中旬の2回に分け、それぞれ独立した試験区を設けた。

アブラムシ類の主要な天敵であるテントウムシ類やヒラタアブ類は、シロカラシ、クローバ、ヘアリーベッチで多く、アザミウマ類の主要な天敵であるヒメハナカメムシ類はシロカラシおよびヘアリーベッチが多かった。なお、これらの土着天敵は餌の量に依存していると推察され、ヒメハナカメムシ類はシロカラシおよびヘアリーベッチにおいて越冬個体も確認された。講演では、主要な植物を産地のオクラほ場へ植栽した場合の温存効果についても紹介するとともに、上記の天敵温存植物の新たな利用方策について考察する。

なお、本研究の一部は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「登録農薬の少ない地域特産作物（マイナー作物）における天敵利用技術の確立（27009B）」において実施したものである。また、植物の基礎情報等の提供をいただいた雪印種苗（株）に厚く御礼申し上げます。

Selection of the beneficial plants which contributes to the conservation for indigenous natural enemies against thrips and aphids throughout Autumn to Spring season.

Kazuki Kakimoto¹・Yatsuka Nishi¹・Makoto Hagatomo¹・Kousaku Koyamada²・Nobuo Mizutani³

¹Kagoshima Prefectural Institute for Agricultural Development

²Kagoshima Prefectural Nansatsu Regional Promotion Bureau Agricultural Promotion and Advisory Division Ibusuki

³Kyushu Okinawa Agricultural Research Center